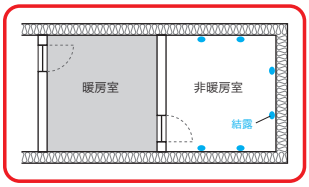
『図説 やさしい建築環境 』第 3 版第 6 刷　正誤表
本書において下記の誤りがございました。深くお詫びいたしますとともに、ここに訂正させていただきます。
2020 年 7 月 （株）学芸出版社

p59

その他の結露防止対策

差し替え



◎隣室の結露防止

断熱性の高い建物であっても、暖房室と非暖房室では、
非暖房室のほうが、結露が発生しやすい。

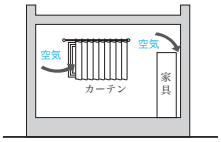
⇩

各部屋の温度差を小さくすると、結露は生じにくい！

◎家具やカーテン裏の結露対策

家具やカーテンなどがあると、室内を温めても窓（ガラス）や
家具の裏の壁の表面温度が上がらないため、結露が起こりやすい。

家具 ⇨ 壁から 5 cm程度離し，室内の空気が廻り込むようにする。
カーテン ⇨ 窓が少し見える程度に開けておく。



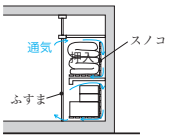
◎押入の結露対策

押入には、布団などを収納するので、水蒸気が溜まりやすい。

⇩

スノコなどを用いて、空気が抜けるように工夫をする。

※押入の気密性を高めると、通気ができず、かえって結露する場合もあるので注意する。



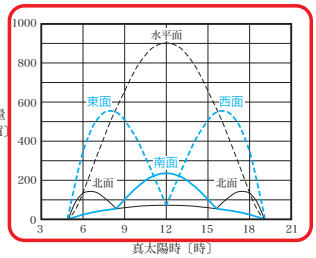
p77

② 方位による日射の受熱量の特性

建物や地面が受ける日射による単位面積当たりの受熱量は、方位や季節によって異なる。

夏至：南面の日射量は、東西面の約 1/2 程度

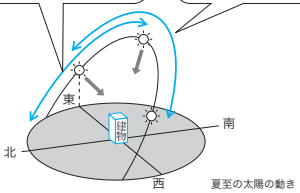
差し替え



夏至の建物各面の直達日射量（北緯 35°）

東面が日射を受ける時間帯
建物に対して直角に日射を受ける時間が長い。
⇩
受熱量が多い。

南面が日射を受ける時間帯
建物に対して常に鋭角に日射を受ける。
⇩
受熱量が少ない。



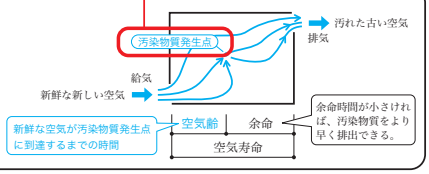
夏至の太陽の動き

p90

汚染室発生点 → 汚染物質発生点

空気齢

実際には、室内の汚染物質濃度の分布は一様
ではないので、換気の効率も考える必要がある。

⇩

この時、空気がどのくらい新鮮かを表す
空気齢を考える。